

原子力災害時避難円滑化モデル実証事業

令和3年度予算（案）

エネルギー対策特別会計

10億円（15億円） 継続事業分



事業の背景・内容

事業の背景と必要性

原子力災害に係る避難経路は、非常時には確実に使用できる必要がありますが、過疎地や山間地等に立地することも多く、整備が優先されていません。そのため平成28年度補正等において、順次避難経路等の阻害要因改善の調査を行ってきました。

その結果、避難経路の狭隘部におけるバス等による住民避難の迅速性の向上等が提起されています。

こうした点を具体的に改善するため、「経済財政運営と改革の基本方針2019（いわゆる『骨太の方針』）」における防災・減災と国土強靱化の推進の一環として、効果的・効率的な避難方法の改善についてモデルとなる経路を数例選定し、避難の円滑化を図るための各種の対策からなる計画（避難円滑化計画）を作成した上で、この計画に基づく改善モデルの実証とその成果の普及について支援します。

事業の内容・実施項目

これまでに抽出された阻害要因とその改善策の中から、全国の範となるモデルを選定し、実証等を行います。

（支援例：一方通行化のための信号機のソフト改修、電光標識等の設置、すれ違い待避所の設置等の局部的な改修等）

事業のスキーム

国

定額補助

立地道府県等

事業のイメージ

平成28年度補正等における阻害要因と改善提案の例

防災訓練や現地実態調査等の実施

教訓・課題の抽出

避難円滑化計画の作成・実施
（モデル実証事業）

緊急時に避難の改善効果が見込まれるモデル経路の選定
交通誘導対策等各モデル地区に応じた対策

- ト 一方通行化など効果的な対策（計画の作成）
- ト 信号機の点灯時間の最適化等（既存インフラの強化）

その上で、局部的な阻害要因等を改善する有効な対策。



電光標識、反射材等の設置により安全



行き違いを可能にする車両の選定や、局部的な拡幅等により迅速な避難を実現

構築した避難モデルの実証成果を広く普及・共有
交通渋滞の緩和など安全かつ迅速な避難の実現